

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	東北文教大学（学部・学科等の課程）			設置者名	学校法人 富澤学園				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和6年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
人間科学部	子ども教育学科	平成22年度	70人	幼一種免	平成22年度（令和元年度）	76人	68人	45人	39人
				小一種免	平成22年度（令和元年度）			38人	
入学定員合計			70人	合計		76人	68人	83人	39人
教員養成に関する情報の公表状況		https://www.t-bunkyo.ac.jp/departments/kodomokyoku/							
備考									

東北文教大学短期大学部

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	東北文教大学短期大学部（学科等の課程）			設置者名	学校法人 富澤学園				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和6年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
	子ども学科	昭和42年度	70人	幼二種免	昭和42年度 (令和元年度)	79人	66人	66人	19人
入学定員合計			70人	合計		79人	66人	66人	19人
教員養成に関する情報の公表状況		https://www.t-bunkyo.ac.jp/departments/kodomo/							
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・山形女子短期大学より、山形短期大学に名称変更 平成13年度 ・幼児教育科より、子ども学科に名称変更 平成17年度 ・山形短期大学より、東北文教大学短期大学部に名称変更 平成22年度 								

教職課程大学実地視察に対する講評

実地視察日：令和8年1月23日（金）

実地視察大学等：東北文教大学・短期大学部（オンライン）

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教育研究実施組織等については、全般的に基準を満たしており、おおむね良好に実施されている。引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○貴学としての教員養成に対する理念・構想について、それを明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めていただきたい。

○ファカルティ・ディベロップメントやスタッフ・ディベロップメント等を通じて、教員養成に関する最新の制度等への理解を図るとともに、教職課程コアカリキュラムをふまえたシラバス内容の確認・充実、及び教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教育研究実施組織

○教職課程における各科目のシラバスの内容を精査し、科目の繋がりを意識するとともに、教職課程全体における各科目の位置づけについて、今後検討いただきたい。

○特に ICT 関係については、「教職課程における教師の ICT 活用指導力充実に向けた取組について」（令和2年10月5日中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会）の内容もふまえた学生への指導を行っている旨の確認ができた。今後においては、学生が教職に就いた際に学校現場の ICT 活用状況に対応できることを見据えた学内のさらなる環境整備を検討いただきたい。

3. 教育実習の取組状況

○短期大学部において、幼稚園の教育実習をスムーズに進められるよう、観察実習等も取り入れた理論と実践を往還するようなカリキュラムを構成していることが確認できた。

○教育実習前にスクールサポーターやインターンシップを行い、教育実習がスムーズに進められるような工夫を行っていることが確認できた。

○教育実習について、教員による全教育実習校園への事前訪問や、教育実習中の訪問指導を行っていることが確認できた。

○引き続き地元の教育委員会と連携いただき実習先の確保に努めていただくとともに、学生の負担軽減等の観点から、やむを得ず遠隔地の学校や学生の母校における実習を行う場合においても、実習先の学校と連携し、大学が教育実習にいつそう関わる体制を構築するとともに、実習期間中の学生への適切な指導方法、公正な評価が保証されるよう、努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 大学・短期大学部において、教育実習の指導履歴を電子化して教員間で共有する等、学生へのきめ細かい指導を行っていることが確認できた。
- 大学においては、小学校の教員採用試験対策として、学生の授業外時間を使って、年間 200 回もの学習会を行い、小学校への高い教員就職率につなげていることが確認できた。
- 今後、電子化された履修カルテのデータの分析やさらなる活用を期待する。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 教育実習やスクールサポーター活動を通じた地元教育委員会等との連携について確認ができた。今後においてもさらなる連携を期待する。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 施設・設備については一定整備されていることが確認できた。
- 図書館においては、学生が教職に関連する最新の知識を得られるよう、最新版の関連書籍について継続的な購入を検討いただきたい。
- 教員や事務職員が常駐している教職実践センター、隣接した学生ホールについて、教職を履修する学生が学ぶ施設が充実していることが確認できた。

7. その他特記事項

- 担当科目に関わる適切な活字業績を有さない教職科目担当教員が見受けられたため、ファカルティ・ディベロップメントを通じた授業内容の省察・改善や、関係学会や研究紀要への論文投稿などにより、担当科目において含めることが必要な事項に関わる研さんを積むことを可能とする環境の整備により引き続き取り組んでいただきたい。